

平成 30 年(2018 年)度事業報告書

平成 30 年(2018 年)4 月 1 日～平成 31 年(2019 年)3 月 31 日

I. 社会貢献啓発事業（公益目的事業 1）

1. 機関誌の頒布事業

当協会の活動報告とともに、社会の課題を抽出し特集として企画・編集している。平成 30 年度の実績は以下の通り。

平成 30 年度	特 集
No. 385 (4-5 月号)	次代の雇用を考える～「就労弱者」が拓く可能性～
No. 386 (6-7 月号)	他者への想いが自分を支える
No. 387 (8-9 月号)	伝統を守る革新
No. 388 (10-11 月号)	家族はみんな“わけあり”家族
No. 389 (12-1 月号)	いま改めてスポーツマンシップを考える
No. 390 (2-3 月号)	震災復興から地域再生への挑戦を追う

2. インターネットを利用した情報提供事業

当協会の活動をはじめ、企業の社会貢献・CSR 情報の提供、NPO・NGO 団体の活動最新情報を発信。

- 新規
- (1) メールマガジン（毎月 1 日・15 日配信 配信数約 6,000 件）
 - (2) 当協会 WEB サイト情報更新
 - (3) 理事長ブログ掲載開始（2018.9.20～）
 - (4) (1)(2)を補完する情報発信源として、SNS (facebook) を利用。協会をより身近に感じてもらえる事の出来るトピックを選び、職員全員で情報をアップ。
<https://www.facebook.com/philanthropy.or.jp>

II. 社会貢献促進事業（公益目的事業2）

1. 研修事業

(1) 定例セミナー

年度の初めは新任の CSR 担当者も多いことから、今年度も4月より5回シリーズで基礎講座を開講した。

（ ）前年度

実施日	内容	参加者数
第 342 回 4 月 25 日	CSR 基礎講座 I 『SDGs 時代の温故知新～CSR の原点を企業市民の視点から考える』 ＜講師＞松岡 紀雄 氏（神奈川大学名誉教授）	30 名 (35 名)
第 343 回 5 月 16 日	CSR 基礎講座 II 『SDGs 時代の社会と企業 ～持続可能な社会づくりに求められる企業の視野と戦略～』 ＜講師＞川北 秀人 氏 (IIHOE [人と組織と地球のための国際研究所] 代表)	64 名 (25 名)
第 344 回 6 月 6 日	CSR 基礎講座 III 『真にサステナブルな企業とは～ESG 投資の視点も含めて』 ＜講師＞河口 真理子 氏（株式会社大和総研 主席研究員）	53 名 (19 名)
第 345 回 6 月 18 日	CSR 基礎講座 IV 『ダイバーシティを組織の力に変えるには～多様性の中での相互理解』 ＜講師＞熊谷 晋一郎 氏（東京大学 先端科学技術研究センター 准教授）	36 名 (35 名)
第 346 回 7 月 3 日	CSR 基礎講座 V 『CSR の最新トレンド～SDGs の国内・海外の動向を踏まえて』 ＜講師＞関 正雄 氏 (損害保険ジャパン日本興亜株式会社 CSR 室シニアアドバイザー)	68 名 (49 名)
第 347 回 7 月 20 日	『多様な人の社会参加と新しいテレワークを可能にするロボット』 ＜講師＞吉藤 健太郎氏（株式会社オリィ研究所共同創設者/代表取締役 CEO)	24 名 (32 名)
第 348 回 9 月 18 日	『SDGs 時代における CSR の対外コミュニケーション』 ＜講師＞ 宮田 千夏子 氏 (ANA ホールディングス株式会社 コーポレートコミュニケーション室 コーポレートブランド・CSR 推進部 部長) 内田 雄司 氏 (大和ハウス工業株式会社 CSR 部 ソーシャルコミュニケーション室長) 塩田 裕子 氏 (株式会社丸井グループ ESG 推進部兼サステナビリティ部 ESG 推進兼サステナビリティ担当課長)	74 名 (43 名)
第 349 回 10 月 29 日	『障がい者雇用の促進と定着』 ＜講師＞ 中林 良則 氏 (株式会社キューピーあい 代表取締役社長) 木村 幸絵 氏 (ソフトバンク株式会社 人事総務統括 CSR 統括部 CSR 部 CSR1 課長) 秦 政 氏 (NPO 法人 障がい者就業・雇用支援センター 理事長)	36 名 (16 名)
第 350 回 11 月 15 日	『サステナビリティ経営を会計から捉える ～「経済の時代」から 「人間の時代」へ』 ＜講師＞ 國部 克彦 氏（神戸大学大学院経営学研究科 教授）	32 名 (26 名)
第 351 回 12 月 20 日	『「まひるのほし」映画鑑賞と対談～ボーダレス・アートの 20 年～』 ＜対談登壇者＞ 北岡 賢剛 氏	47 名 (66 名)

	(社会福祉法人グロー 理事長/ボードレス・アートミュージアム No-Ma 設立者) 小林 瑞恵 氏 (社会福祉法人愛成会 副理事長・アートディレクター)	
第 352 回 1 月 17 日	『外国人受け入れ新政策～日本の未来はどう変わるのか?～』 <講師>毛受 敏浩 氏 (公益財団法人 日本国際交流センター 執行理事)	35 名 (20 名)
第 353 回 2 月 15 日	『CSR・社会貢献活動を「伝えるコツ」～参加意欲を高める訴求力強化 ワークショップ～』 <講師> 伊藤 公一 氏 (株式会社電通九州 チーフクリエイティブオフィサー) 金子 花菜 氏 (株式会社電通 総務局 社会貢献部 コミュニケーションデザイナー/ 「伝えるコツ」担当)	73 名 (30 名)
第 354 回 3 月 25 日	『社員の主体的参加がつくる次世代教育支援プログラム』 <講師> 川向 緑 氏 (日本オラクル株式会社 コーポレートシチズンシップ) 中野 友華 氏 (株式会社ファーストリテイリング サステナビリティ部 ソーシャルイノベーションチーム)	20 名 (50 名)

平成 30 年度 592 名
(平成 29 年度 446 名)

(2) フィランソロピーセミナー in 関西

平成 30 年度も、関西（大阪）を中心に開催した。

() 前年度

実施日	内容	参加者数
第 29 回 6 月 11 日	『障がい者スポーツを通じて実現する共生社会』 【卓球バレーの体験付き】 <講師>堀川 裕二 氏 社会福祉法人太陽の家 (大分県別府市) 日本卓球バレー連盟 副会長・普及委員長 日本障害者スポーツ学会理事	12 名 (15 名)
第 30 回 9 月 25 日	統合報告書から見る『CSR についての対外的コミュニケーション』 <講師> 野崎 治子 氏 (株式会社 堀場製作所・理事 管理本部 HORIBA COLLEGE 学長兼 CSR 担当) 内田 雄司 氏 (大和ハウス工業株式会社 CSR 部 ソーシャルコミュニケーション室長)	29 名 (29 名)
第 31 回 12 月 22 日	地域を支える次世代の育成～地域・企業・学校の連携を考える～ (2018 年度 JKA 補助事業 共同開催) <講師> 岡本 工介 氏 (一般社団法人タウンスペース WAKWAK 事務局長) 富田 年久 氏 (大阪府立東住吉高等学校教諭) 神山 和英 氏 (大阪府立長吉高等学校教諭) 相良 有希子 氏 (阪急阪神ホールディングス株式会社 人事総務室 総務部 社会貢献担当 課長) 船溪 俊輔 氏 (大阪ガス株式会社近畿圏部ソーシャルデザイン室)	16 名 (20 名)
第 32 回 3 月 5 日	『サステナビリティ経営について考える』 ～会計学の観点から～ <講師> 國部 克彦氏 神戸大学大学院経営学研究科 教授	19 名 (27 名)
第 33 回 3 月 22 日	『次世代につながるまちづくりに必要な、企業、行政、地域住民の連携』 ～アメリカ オレゴン州 ポートランドの事例から学ぶ～ <講師> 西芝 雅美氏 ポートランド州立大学 (PSU) ハットフィールド大学院行政学部長 准教授	33 名 (一)

(3) Stone Soup Club (ストーン・スープ・クラブ)

実施日	内容	参加者数
第 41 回 6 月 25 日	『障がい者スポーツを通じて実現する共生社会』【卓球バレーの体験付き】 ＜講師＞堀川 裕二 氏 社会福祉法人太陽の家（大分県別府市） 日本卓球バレー連盟 副会長・普及委員長 日本障害者スポーツ学会理事 児玉友氏 日本福祉大学 助教授	13 名
第 42 回 10 月 25 日	『フィリップス・グローバルのサーキュラーエコノミーへの取り組みを直に聞く』 ＜講師（通訳つき）＞ Harald Tipper, Senior Director, Group Sustainability, Royal Philips Markus Laubscher, Sustainability Professional (Circular Economy & Transformation), Royal Philips	22 名
第 43 回 3 月 18 日	『米国 CSR の最新トレンド』 ＜講師（通訳つき）＞ Mr. Timothy J. McClimon, President of American Express Foundation, Senior Vice President for Corporate Social Responsibility, American Express Company	19 名

(4) 経営者向けエグゼクティブセミナー

平成 30 年度も、企業経営者向けセミナーを 5 回シリーズで開講。自然環境の深刻な悪化、経済格差の進行や新たな技術の急速な進展による予期しなかった問題の発生など、企業をとりまく環境が激変する中、今後の企業経営はどうあるべきか、道筋を多角的に考えるセミナー。

総合プロデューサーとして株式会社レスポンスアビリティの足立直樹氏が協力。

() 前年度

実施日	内容	参加者数
第 1 回 10 月 22 日	『SDGs 時代のサステナブルビジネスを考える』 ＜講師＞ 足立 直樹 氏 (株式会社レスポンスアビリティ 代表取締役)	4 社 6 名 (7 社 11 名)
第 2 回 11 月 8 日	『2030 年代を視野に入れた長期戦略 ～自社と社会の持続可能性を高めるためのバックキャストینگ～』 ＜講師＞川北 秀人 氏 (IIHOE [人と組織と地球のための国際研究所] 代表)	5 社 7 名 (7 社 11 名)
第 3 回 12 月 14 日	『グローバルな ESG 投資市場からの視点』 ＜講師＞水口 剛 氏 (高崎経済大学 教授)	6 社 8 名 (7 社 9 名)
第 4 回 1 月 24 日	『予測不能な時代に求められるクリエイティビティとイノベーション』 ＜講師＞土谷 貞雄 氏 (株式会社貞雄 代表)	6 社 8 名 (8 社 10 名)
第 5 回 2 月 27 日	『しあわせな社会をいかに実現すべきか～幸福学からの提言～』 ＜講師＞前野 隆司 氏 (慶應義塾大学大学院 システムデザイン・マネジメント研究科 教授)	6 社 8 名 (一)

(5) 「アメリカン・エクスプレス・リーダーシップ・アカデミー」
～NPOリーダーのためのリーダーシップ育成プログラム～

- ① American Express Leadership Academy Global Alumni Summit 2018
「アメリカン・エクスプレス・リーダーシップ・アカデミー」のスポンサーである
アメリカン・エクスプレス財団より招待を受けて、研修生とパートナー団体を対象にした
グローバル・サミットに落合が出席した。
日時：平成30年4月16日（月）から17日（火）
会場：マンハッタン・コミュニティ・カレッジ（米国ニューヨーク市）

- ② アメリカン・エクスプレス・リーダーシップ・アカデミー2018 第10期 福岡
日時：平成30年5月31日（木）から6月2日（土）2泊3日
会場：TKP ガーデンシティ PREMIUM 博多駅前（福岡県福岡市）
総合監修：米倉誠一郎氏（法政大学大学院 イノベーション・マネジメント研究科 教授）
研修参加者：全国のNPO次世代リーダー32名（公募および推薦）

プログラム：

<基礎講座（理念・哲学）>

- ・「未来を拓くイノベーション」（米倉誠一郎氏）
- ・「率先垂範のリーダーシップ」（米倉誠一郎氏）

<実務講座（業務遂行能力）>

- ・「ロジカルシンキングと問題解決スキル」
- ・「モチベーション・マネジメント」
- ・「ユニバーサルトイレ・チェック（フィールドワーク）」
- ・「アメリカン・エクスプレスのリーダーシップ論」等

<グループワーク>

- ・「私の履歴書」執筆を含む「自己探求の旅」
- ・課題に対する企画の作成およびプレゼンテーション準備
- ・課題プレゼンテーション

- ③ アメリカン・エクスプレス・リーダーシップ・アカデミー2018
第10期 東京『フォローアップ・セッション』
日時：平成30年9月6日（木）12:30～18:30
会場：ワテラスコモンホール（東京都千代田区）
参加者：2月の合宿研修に参加した研修生30名

- ④ アメリカン・エクスプレス・リーダーシップ・アカデミー2018
第10期 福岡『フォローアップ・セッション』
日時：平成30年11月29日
会場：福岡NPO・ボランティアボランティア交流センター「あすみん」
参加者：5月の合宿研修に参加した研修生28名

- ⑤ アメリカン・エクスプレス・アカデミー10周年記念プログラム
日時：平成31年3月19日
会場：日本財団ビル
主催：公益社団法人日本フィランソロピー協会
共催：特定非営利活動法人エティック
参加者：アメリカン・エクスプレス・リーダーシップ・アカデミーおよびアメリカン・
エクスプレス・サービス・アカデミー卒業生ほか129名参加

2. 顕彰事業

(1) 第16回企業フィランソロピー大賞

7月2日(月)より告知を開始し、下記のスケジュールにて事業を進める。

<スケジュール>

平成30年7月2日～9月14日	公募
平成30年10月10日	第1次選考委員会
平成30年10月中旬～11月下旬	各社ヒアリング(10社程度)
平成30年12月27日	第2次選考委員会・贈呈先企業決定
平成31年1月中旬	贈呈先企業の発表
平成31年2月28日	贈呈式(於:日本プレスセンター)

<選考委員>

委員長	武田 晴人氏(東京大学 名誉教授)
委員	井出 明子氏(日本電信電話株式会社 常勤監査役)
	佐藤 雄二郎氏(株式会社共同通信社 代表取締役社長)
	渋谷 健氏(コモンズ投信株式会社 取締役会長)

<受賞企業>

企業フィランソロピー大賞 UBSグループ (東京都千代田区)
UBS証券株式会社、UBS銀行東京支店
UBSアセット・マネジメント株式会社
UBSジャパン・アドバイザーズ株式会社

<企業フィランソロピー賞>

【選考委員長特別賞】	株式会社富士メガネ	(札幌市)
【幸福への轍(わだち)賞】	有限会社さいとう工房	(東京都墨田区)
【輝く笑顔とともに賞】	資生堂ジャパン株式会社	(東京都港区)
【いのちの伝道師賞】	損害保険ジャパン日本興亜株式会社	(東京都新宿区)
【未来を拓くAKARI賞】	パナソニック株式会社	(大阪府門真市)
【地域共創賞】	株式会社みなと銀行	(神戸市)

(2) 寄付川柳

募集期間:平成30年11月1日(木)～平成31年1月15日(火)

参加費:1,000円(2句まで)但し、18歳以下は無料。

(運営協力費)

表彰:最優秀賞(1作品)賞金3万円および記念品
優秀賞(2作品)賞金1万円および記念品
佳作(若干数)記念品

選者:水野 タケシ 氏/コピーライター、川柳家
高橋 陽子/公益社団法人日本フィランソロピー協会 理事長

発表:入選作は平成31年2月末に当協会のホームページで発表。

応募詳細:応募総数

前回366句(207名より)→今回1,567句(852名より)

参加費合計

前回34,000円(29名より)→今回87,000円(76名より)

応募方法

●WEBでのご応募:122名

●郵便でのご応募※スタッフへの手渡しも含む:731名

●WEB・郵送でのご応募:1名

男女構成比

○男性 703 名、女性 142 名、不明 7 名

年齢構成比

☆最年少 4 歳、最高齢 94 歳。

年齢	人数
10 歳未満	4
10 代	757
20 代	4
30 代	10
40 代	8
50 代	13
60 代	18
70 代	31
80 代	4
90 代	2
不明	1
計	852

- A. 選考 ① 第一次選考として職員 6 名により 285 句に絞り込み。
② 最終選考会を平成 31 年 1 月 31 日（木）13：00～に実施。
選考委員：有識者として川柳家「水野タケシ」氏、高橋理事長

B. 選考結果

最優秀賞	役に立てぼくのわずかなおこづかい	矢作 元希	16 歳
優秀賞	天井を親子にかえてレジ募金	太田 堯子	72 歳
優秀賞	入れたときミスに気づいた諭吉ゆく	さくら太郎	14 歳
佳作	教室へそよ風送れこの寄金	南 信	94 歳
佳作	できることなんもないからせめて寄付	坂梨和江	65 歳
佳作	女房とは募金手伝いキッカケで	パリっ子	56 歳
佳作	髪切った失恋じゃない寄付したの	入り江わに	55 歳
佳作	ありがとう今の私に出来ること	はな	42 歳
佳作	人見知りでも出来る今ネット募金	青我奈柚	35 歳
佳作	映（ば）えずともみんなでやれば流行に	松本 理史	16 歳
佳作	募金箱細い穴から君を見る	夜明 俊介	16 歳
佳作	立ち止まる足の数だけ救われる	木村 友哉	16 歳
佳作	新年号今年はぼくの寄付元年	齋藤 光起	13 歳

3. フィランソロピー・バンク事業（個人寄付普及事業）

(1) NPO 向け

社名	内容
アメリカン・エクスプレス・インターナショナル・インコーポレイテッド	熊本地震の被災者支援のため、ギフトカードの売上げに応じた寄付を実施。
株式会社 NTT データ	社内で実施したバレンタイン・チャリティープログラムの収益を、3 団体に寄付。
株式会社かんぽ生命保険	保険商品でウェブ約款を選択した顧客数に応じ寄付金を拠出するプログラムで環境分野の NPO 33 団体に寄付金を配布。
株式会社ジェシービー	被災地支援の取組みとして実施。平成 30 年（第 8 回）は、東日本大震災と 7 月豪雨災害の支援として 22 団体を選定済、11 月に寄付金を配布。
Fidelity International Foundation	NPO の基盤整備を目的として 2 団体を選定中。
株式会社三井住友銀行	社員による寄付プログラムで、コミュニティ・次世代・環境の分野で活動する 18 団体、および社員がボランティアをしている 12 団体に寄付金を配布。
株式会社ファンケル	顧客のポイントを金額換算したものと、社員からの寄付を合算し、全国 10 ヶ所の重度心身障がい者施設に寄付する。平成 30 年 4 月に 11 団体の寄付先が決定。6 月上旬に寄付を実施、9 月に活用報告書を受領済み。 平成 31 年 3 月に、次年度の寄付先調査を実施予定。
明治安田生命保険相互会社	チャリティー・コンサートの会場で集めた募金を、東北 3 県で「次世代育成」の分野で活動する 6 団体に寄付。 2 月 20 日に贈呈式を実施し、各団体 167,000 円寄付 社会貢献活動基金を通じて、児童支援、被災地支援、障がい者・高齢者支援、環境保全および LGBT 支援を行う団体から 8 団体を選考し寄付。平成 31 年 1 月に候補団体 20 団体を提案。3 月に寄付先確定し、配布実施
東京海上日動あんしん生命保険株式会社	社員の給与天引き、代理店でのグッズ販売の一部を難病患児支援団体、認知症啓発団体に寄付予定。寄付先は前年度より継続。
TOYO TIRE 株式会社	環境基金の内 1,200 万円分の寄付を担当。環境問題に携わる団体を公募の上、選考し助成する。1 団体上限 50 万円。 申請団体数：29 団体 審査の結果 19 団体に助成。助成総額：18,069,250 円

(2) 個人向け

① 東京海上日動あんしん生命 奨学金制度

➤ 応募資格等

- ◆ 疾病により保護者を失った遺児で、経済的理由により支援を必要とし、高等学校等から大学等への進学希望がある方
- ◆ 応募時における前年度の年間世帯収入金額が、指定の条件を超えない方
- 募集期間：平成30年6月1日（金）～平成30年10月31日（水）
- 募集人数：60名（10名増）
- 給付額：年間 30 万円
- 申請者数：115 名

② 東京海上日動あんしん生命 幼児教育支援制度

- 応募資格等
 - ◆ 疾病により保護者を失い、経済的理由により支援を必要とする未就学の遺児かつ平成25年4月2日～平成28年4月1日生まれのお子さまを養育する方
 - ◆ 応募時における前年度の年間世帯収入金額が、指定の条件を超えない方
- 募集期間：平成30年6月1日（金）～平成30年10月31日（水）
- 募集人数：30名（昨年度は100名）
- 支援内容：
 - ◆ 株式会社ベネッセコーポレーションの「こどもちゃれんじ」を、年少～年長期間に1年間～最大3年間、無償で提供
 - ◆ 教材提供期間中、進級の際「進級お祝い金」として年間3万円を給付。（新規）
 - ◆ 進学前のランドセル寄贈
- 申請者数：7名

新規

③「誕生日寄付事業」

- ・寄付のプラットフォーム(専用ウェブサイト)を作り、個人の寄付の実践を促進する事業を平成30年度より開始し、平成31年度も戦略的に取り組んでいく。集まった寄付金は、審査員会にて審議・決定した、各カテゴリの団体(複数)へ届ける。
- ・**支援分野・寄付先団体は**、「子どもたちの今を支え、未来に投資する」をコンセプトに、今年度は、「困難を抱える青少年への支援」に特化。特に、日の当たりにくい分野（以下、カテゴリ）に関心をもってもらい、彼らを支援すると同時に、次世代を担う彼らが、健全な市民へと成長することをサポート。集まった寄付金は、審査員会にて審議・決定した、各カテゴリの団体（複数）へ届ける。

★ 生きるを支える

児童虐待相談対応件数は統計開始以来、毎年増加し続けています(平成24年度は平成11年度の約6倍)。虐待や家庭崩壊などにより、耐えられず逃げてきた子、風俗産業や暴力団を頼らざるを得ない子、もう一度、人生をやり直したい子どもたちを守り、支える活動です。

<寄付先団体>

- ・社会福祉法人カリヨン子どもセンター
- ・一般社団法人若草プロジェクト

★ 学びを支える

日本には現在、義務教育を修了していない人たちが約13万人います

(平成22年国勢調査)。加えて、引きこもりや不登校などにより十分に教育を受けられなかったにもかかわらず、卒業証書を手にした「形式卒業者」と呼ばれる若者が多数生まれています。彼らの学びを支える活動です。

<寄付先団体>

- ・福島に公立夜間中学をつくる会
- ・一般社団法人岡山に公立夜間中学校をつくる会

★ 外国人を支える

全国には、3万人以上の海外にルーツを持つ子どもたちが、日本語指導を必要としています。親の移民や単純労働などのための定住により日本に連れてこられ、言葉の問題をはじめ、文化・習慣の問題、親の貧困の問題などにより、いじめ、非行、引きこもり、親からの虐待などにより苦しんでいる子どもたちがいます。このような子どもたちの居場所づくりや学習支援などの活動です。

<寄付先団体>

- ・特定非営利活動法人 青少年自立援助センター (YSC グローバル・スクール)
- ・特定非営利活動法人 大泉国際教育技術普及センター

賛同人

瀬戸内 寂聴 小説家・天台宗尼僧
川淵 三郎 公益財団法人日本サッカー協会 相談役
前野 隆司 慶應義塾大学 大学院システムデザイン・マネジメント研究科 教授
米倉 誠一郎 法政大学大学院 イノベーション・マネジメント研究科 教授
渋谷 健 コモンズ投信株式会社 取締役会長
加藤 登紀子 シンガーソングライター
日比野 克彦 東京藝術大学美術学部長
竹川 隆司 東北風土マラソン創始者 実行委員会副実行委員長
岡本 和久 I-O ウェルス・アドバイザーズ株式会社 代表取締役社長
伊藤 宏一 千葉商科大学 人間社会学部 教授
小宮山 宏 三菱総合研究所 理事長
古賀 良彦 杏林大学 名誉教授
板東久美子 日本司法支援センター理事長

(平成 31 年 3 月 31 日現在／敬称略 順不同)

平成 30 年度 実施事項

- ・企画会議
平成 30 年 9 月より毎月実施。場所：当協会会議室
メンバー（以下、敬称略）
土谷 貞雄 様（株式会社貞雄代表）
清水 亘平 様（オフィスナイス代表／デザイン情報学科 准教授）
田中 辰也 様（株式会社 STYZ 代表取締役）
大西 誠 様（シニアフェロー／元株式会社ジャルパック代表取締役社長）
和山 正秀 様（株式会社ケイジェイシー）
橋川 幸夫 様（株式会社デジタルメディア研究所代表取締役）
- ・寄付先審査会 平成 31 年 1 月 16 日 場所：当協会会議室
当協会が探索した以下の候補 6 団体について審議・決定頂いた。
<審査員>
嶋田 実名子 様（個人情報保護委員会 委員長）
若林 朋子 様（特定非営利活動法人 芸術公社 理事）
野澤 和弘 様（株式会社毎日新聞社 論説委員）
- ・記者発表のニュースリリース
平成 31 年 1 月 11 日 PR ワイヤーにて全メディア配信
佐藤 雄二郎理事（株式会社共同通信社 代表取締役社長）より在京各紙社会部長へご依頼頂いた
- ・記者発表
平成 31 年 1 月 23 日 会場：東京会館

4. フィランソロピー社会基盤整備事業

(1) 個別企業社会貢献推進事業

A. 従業員ボランティア支援事業

① 「ボランティアウェブ」利用企業

社名	内容
株式会社NTT ドコモ	平成 28 年 4 月より通年での契約で「ボランティアウェブ」の利用を開始。現在 5 地域で利用中。
日本ロレアル株式会社	平成 30 年 6 月の 1 カ月のみの期間限定利用。全世界でのボランティア強化月間のプログラムの受入先調整及び申込受付業務を受託。今年は、相乗りプログラムを含め、60 種、740 名分のプログラムを「ボランティアウェブ」を通じて募集し、536 名が活動した。
株式会社ジェーシービー	平成 23 年から実施している「JCB 社会貢献プログラム」のボランティア受付管理を「ボランティアウェブ」を通じて引き続き利用中。
サントリーホールディングス株式会社	平成 29 年 3 月より、社内の「働き方改革」の一環で、「ボランティアウェブ」を利用中。
日本たばこ産業株式会社	平成 31 年 3 月より利用開始
株式会社電通	平成 31 年 4 月より利用開始
株式会社三菱 UFJ 銀行	平成 31 年 4 月より利用開始

② 個別コーディネート企業

社名	内容
アクセンチュア株式会社	部門毎で不定期に、新入社員研修は毎月、年 26～30 回程度のプログラムを企画運営。 平成 30 年度新規企画として WELgee による在日難民とのワークショップを実施（1 月 19 日（土）、2 月 9 日（土））。
MSD 株式会社	平成 30 年度は、新入社員ボランティアの一環として、実施するボランティアプログラムを当協会にてコーディネートし、6 月に実施。
株式会社オリエント コーポレーション	新入社員の半年後フォローアップ研修のボランティアプログラムをコーディネート。10 月に 2 回実施。
株式会社かんぽ生命保険	会議室ボランティアを年 2 回実施。平成 30 年度は 8 月と 2 月に実施。
新日鉄住金エンジニアリング株式会社	平成 26 年より、3 カ月に 1 回の頻度でボランティアプログラムを実施。今年度は 6 月と 9 月に本社にて開催。
積水化学工業株式会社	東京本社の呼びかけで、全国にある工場や子会社等单位でのボランティアプログラムを実施。
大日本印刷株式会社	従業員の被災地ボランティアプログラムの企画および実施を支援。今年度は、7 月に 31 名にて宮城県石巻市、10 月に 20 名にて熊本県阿蘇市、11 月に石巻にて 15 名で実施。
フィリップ モリス ジャパン 合同会社	従業員ボランティアプログラムの申込受付を「ボランティアウェブ」を通じて支援。
プルデンシャル ジブラルタ ファ イナンシャル生命保険株式会社	年間を通じ、部署ごとに希望するボランティア活動先を紹介。6 月 19 日（火）に手話講習会、7 月 21 日（土）に高齢者施設の納涼祭手伝いを実施。

リシュモン ジャパン株式会社	平成 30 年 7 月 21 日（土）に江の島ビーチクリーンを実施。 9 月 29 日（土）に八王子の里山整備ボランティアを 予定していたが、雨天のため中止。
株式会社レオパレス 21	平成 30 年 11 月入会。初めてとなる社内プログラムを実施。 平成 31 年 3 月 5 日「絵本を届ける運動」3 月 19 日 「みんなで布チョッキン」
株式会社三菱 UFJ 銀行	平成 31 年 4 月の「ボランティアウェブ」開始に先駆け、 下記 3 回の社内プログラムを実施。 3 月 14 日（金）「布チョッキン」幼い難民を考える会@東京 3 月 18 日（月）「外貨コイン仕分け」 日本ハビタット協会@東京 3 月 19 日（火）「セラピードッグ小物づくり」 日本レスキュー協会@大阪

B. 助成支援事業

プログラム名・社名	内容
「田辺三菱手のひらパート ナープログラム」 田辺三菱製薬株式会社	難病患者団体、支援団体が実施する活動への助成金 プログラム。10 月 4 日（本社）、11 日（東京本社）にて 第 5 期助成団体の報告会を実施。10 月 1 日より第 7 期 （平成 31 年度助成事業）募集を開始（11 月 15 日締め切り）。 平成 31 年 1 月 21 日 選考委員会開催。応募 43 団体のうち 19 団体へ助成決定。
「JT NPO 助成事業」 日本たばこ産業株式会社	地域コミュニティ再生と活性化に取り組む NPO 助成事業の 第一次書類審査を実施。

C. 社会貢献活動支援事業

プログラム名・社名	内容
「国産小麦ゆめちからの栽培研究 プログラム」 敷島製パン株式会社	中高生向け社会貢献プログラムの一環で食料自給率を考える ワークショップを企画・ファシリテート。6 月 17 日（日）に 刈谷工場（愛知県）にて実施。 浜松日体中・高等学校、静岡県立富岳館高等学校、 名古屋経済大学高蔵高等学校の生徒 20 名が参加。
「森と紙のなかよし学校」 日本製紙株式会社	日本製紙が所有する菅沼社有林で小学生親子を対象に 行う環境教育プログラム。平成 30 年度は 9 月 22 日（土）・ 23 日（日）に実施。12 家族 30 名が参加。
「ボランティア演芸会」 王子ネピア株式会社	業務用大人オムツ等の売上一部の支援により、全国の 介護施設で、全日本おむつ団と称する東西 10 名の落語家による 演芸会を 80 回開催した。
「森里海つなぐプロジェクト」 東京ガス株式会社	平成 29 年度から開始した、森、里山、海、をつなぐ環境 社会貢献活動の全体の支援。有識者を含む運営委員会で進捗 確認・意思決定をしながら遂行。 5 月 20 日：海の活動として神奈川県海の公園にて 「アマモ再生イベント」実施。（東京ガスの職員とその 家族 93 名を含み総勢 191 名が参加。） 11 月 11 日：5 月の活動にて採取したアマモの種を育て 播く海の活動を実施（東京ガスとその家族 23 名が参加。） 11 月 23 日～25 日：中学生を対象に、東京都の都心部と里山 （東京都檜原村）とをつなぐ「聞き書き」を実施。

	平成 31 年 3 月 21 日報告会を開催。 平成 31 年 2 月 9 日：里の活動として、東京都清瀬市の保全林にて里山保全活動を実施予定だったが、雪のため安全面の配慮から中止。
「新入社員研修」 東京海上日動火災保険株式会社	平成 30 年度新入社員 212 名（グローバルコース採用） プラス 370 名（エリアコース採用）の新入社員研修について 全国 11 地域での研修プログラムを作成。 平成 30 年 4 月 16 日～20 日に実施。
「SAVE SOAP プロジェクト」 アンファー株式会社	創立 30 周年記念事業として、新たに開発した蚊よけ成分を含んだ石鹸を日本国内での売り上げに応じて カンボジアで母子衛生教育とともに配布する。 カンボジアでの教育プログラムと配布に関しては 「認定特定非営利活動法人 シェア＝国際保健協力市民の会」と 協働。石鹸配布の補助として、洗うと絵が浮き上がる絵本を アンファー者が作成。今後衛生教育の補助教材として活用 する。平成 30 年 5 月からカンボジア北部にレアビヒアにて 本格配布スタート。
フィリップ モリス ジャパン 合同会社	西日本豪雨災害被災地への義援金の申込受付サイトを 当協会にて構築し、運営支援。

D. 物品寄贈「あげます・もらいます」事業

会員企業から引っ越し・事業の変更等々で使うことがなくなった物品などの提供を受け、必要とする NPO へ橋渡しした。

平成 30 年 4 月～平成 31 年 2 月の期間で、のべ 12 社からの提供品をのべ 55 団体へ寄贈した。

寄贈時期	企業	寄贈物品	寄贈先団体数
平成 30 年 8 月	株式会社 J-オイルミルズ	オイルギフトセット	1 団体
平成 30 年 10 月	ジョンソン・エンド・ジョンソングループ	音声会議システム	2 団体
平成 30 年 11 月	三菱地所株式会社	防災毛布・文具	4 団体
平成 30 年 11 月	ジョンソン・エンド・ジョンソングループ	文具	2 団体
平成 30 年 12 月	ジョンソン・エンド・ジョンソングループ	中古カメラ	12 団体
平成 31 年 2 月	楽天株式会社	FC バルセロナとのコラボグッズ	10 団体
平成 31 年 2 月	株式会社インフォメーション・ディベロプメント	米	1 団体

※企業より許可を得た案件のみ掲載

(2) 被災地復興支援事業

A. キリン絆プロジェクト

① 支援先フォロー

「復興応援 キリン絆プロジェクト」の支援先のフォローのため、引き続き情報収集や関係性維持のためのコンタクト、ネットワークの構築を進めている。

9月14日、仙台にて「キリン絆 みちのくカンファレンス」を開催。キリン絆プロジェクトの第二ステージで支援した、農業および水産業のプロジェクト41団体・組織、総勢142名が参加。講演やグループディスカッションを通して、相互に現状の課題を理解し、県や業種を越えての連携や地域の復興・発展のきっかけとした。

平成31年3月27日、福島県郡山市の「郡山地域果実醸造研究会」への人材育成のための助成事業の報告会を開催。

② 「地域創生トレーニングセンタープロジェクト」(フォロー)

東北での「東北復興 農業トレーニングセンタープロジェクト」の経験を活かして発足し、平成29年度より統合した、地域創生に取り組む各地の事業者の支援について、公益性・公平性の観点から、アドバイスを行なった。

平成31年3月9日、平成30年度の「最終プレゼンテーション」の報告会を実施予定。

③ 支援先フォロー

「復興応援 キリン絆プロジェクト」の支援先のフォローのため、引き続き情報収集や関係性維持のためのコンタクト、ネットワークの構築を進めた。

9月14日、仙台にて「キリン絆 みちのくカンファレンス」を開催。キリン絆プロジェクトの第二ステージで支援した、農業および水産業のプロジェクト41団体・組織、総勢142名が参加。講演やグループディスカッションを通して、相互に現状の課題を理解し、県や業種を越えての連携や地域の復興・発展のきっかけとした。

平成31年3月27日、福島県郡山市の「郡山地域果実醸造研究会」への人材育成のための助成事業の報告会を開催。

④ 「地域創生トレーニングセンタープロジェクト」(フォロー)

東北での「東北復興 農業トレーニングセンタープロジェクト」の経験を活かして発足し、平成29年度より統合した、地域創生に取り組む各地の事業者の支援について、公益性・公平性の観点から、アドバイスを行なった。

平成31年3月9日、平成30年度の「最終プレゼンテーション」の報告会を実施。全国から250名超の参加者が参集し、1年間の取り組みの成果発表とともに、地方創生のあり方などについて、パネルディスカッションを行い、学びとネットワークを深めた。

B. サントリー・チャレンジド・アスリート

東日本大震災復興支援として以下の3事業を遂行した。

① 第5期「チャレンジド・アスリート奨励金」

7月より公募開始。個人、団体に総額約3,000万円給付予定。本年よりアスリートのみならず指導者に転身した方も含め審査した。

申請数

	個人	団体
岩手県	18	10
宮城県	31	17
福島県	18	5

給付数

	個人	団体
岩手県	11	6
宮城県	22	10
福島県	17	8

給付総額：個人 約 1,400 万円、団体 約 2,000 万円 計 3,400 万円

<審査員> 4名

福留 史朗氏（パラリンピアン：陸上、一般社団法人日本パラリンピアンズ協会 理事）

増子 恵美氏（パラリンピアン：車椅子バスケットボール、
一般社団法人日本パラリンピアンズ協会 理事）

横澤 高德氏（パラリンピアン：チェアスキー）

高橋 陽子（公益社団法人日本フィランソロピー協会 理事長）

② 「チャレンジド・スポーツアカデミー」

・アスリート・ビジット

チャレンジド・スポーツに対する子どもたちの理解を深めるため、チャレンジド・アスリートなどが3県の学校を訪問し、講演や車椅子バスケットボール体験会などを実施した。本年から支援学校向けのアスリート・ビジットをボッチャ競技で開催した。

開催日	実施会場	生徒数
6月13日	福島県岩館村草野・臼田・飯樋小学校、岩館中学校	52名
6月20日	宮城県岩沼市立玉浦小学校	64名
7月2日	岩手県田野畑村立田野畑中学校	78名
9月25日	宮城県仙台市立岡田小学校	31名
10月19日	福島県檜葉町立檜葉北・南小学校	39名
10月24日	岩手県野田村立野田小学校	30名
11月19日	岩手県立盛岡となん支援学校*	22名
平成31年 1月30日	福島県田村市立緑小学校	48名

*盛岡となん支援学校はボッチャの体験と用具寄贈を実施。今後3県の支援学校で実施予定。

・チャレンジド・スポーツ体験教室

学校ではなく公募によりチャレンジド・スポーツの体験会を実施。本年は岩手県にて開催。

開催日	実施会場	参加数	実施競技
12月9日	岩手県ふれあいランド岩手	120	車いすバスケットボール、 ウィルチェアラグビー、 陸上（ガイド、レーサー）、 ボッチャ、卓球バレー

③ 「チャレンジド・スポーツ育成サポート」

チャレンジド・スポーツ育成のため、基盤強化・環境整備などを支援。本年より各県にて車椅子導入教室を実施し、障害者スポーツのすその拡大に向けた講座を実施した。

車椅子導入教室

開催日	実施会場	参加者数	講師
4月	盛岡市立乙部体育館	12名	橋本大佑氏 （ドイツ障害者スポーツ連盟 公認リハビリテーション スポーツ指導者）
21、22日	ふれあいランド岩手	30名	
8月5日	宮城県多賀城市総合体育館	27名	

C. チャリティー・リレーマラソン東京 2018

7回目となる平成30年(2018年)度は、東北から4校、熊本から3校、東京から6校が参加。マラソンイベントの前には東北・熊本・東京参加校生徒による合同募金を実施。12月16日に東北・熊本各校の使途の発表を行う報告会を開催。本年から参加各校での活動の様子を映像にまとめ、使途報告会で発表した。

特別協賛：EY新日本有限責任監査法人

協賛：トヨタ自動車株式会社、華為技術日本株式会社、三菱地所株式会社
 ロート製薬株式会社

特別協力：パナソニック株式会社

(Tシャツ提供：東洋アルミニウム株式会社)

<参加校>

東北 (4校)	熊本 (3校)
<ul style="list-style-type: none"> ・宮城県大崎市立古川中学校 ・宮城県仙台二華中学校 ・東北学院中学校 ・福島県いわき市立平第三中学校 	<ul style="list-style-type: none"> ・高森町立高森中学校 ・高森町立高森東学園義務教育学校 ・御船町立御船中学校

東京 (6校)	
<ul style="list-style-type: none"> ・中央区立銀座中学校 ・墨田区立両国中学校 ・江東区立有明中学校 	<ul style="list-style-type: none"> ・江東区立深川第二中学校 ・八王子市立四谷中学校 ・東京学芸大学附属国際中等教育学校

<イベント実施>

日程	イベント内容	場所
5月12日(土)	東北熟議	東北学院大学土樋キャンパス
5月27日(日)	熊本熟議	高森町立高森中学校
5月12日(土)	東京熟議	東京学芸大学附属国際中等教育学校
6月	映像制作	東北・熊本・東京参加校
6月～7月	東京参加校による募金活動	都内
7月14日(土)	合同募金活動 歓迎会	都内 EY新日本有限責任監査法人会議室
7月15日(日)	リレーマラソン 募金贈呈式	都内 EY新日本有限責任監査法人会議室
12月16日(日)	寄付金使途報告会	東北学院大学土樋キャンパス

8月末までに募金総額は1,814,778円となり、被災地からの参加各校に215,000円、西日本豪雨復興のため、(認定)特定非営利活動法人ハビタット協会、(認定)特定非営利活動法人難民を助ける会に計304,110円を寄付した。

Ⅲ. 共生社会創造事業 (公益目的事業3)

1. 共生社会づくり推進事業

(1) 寄付醸成事業

「まちかどのフィランソロピスト賞」に関わる意見交換会

第20回目の開催を機に、「まちかどのフィランソロピスト賞」を、一旦休止し、この顕彰事業の本旨を新事業「誕生日寄付事業」として引き継ぎ、実施することにつき、関係者の皆様にお集まり頂き、以下のスケジュールで意見交換会を実施した。「まちかどのフィランソロピスト賞」休止の背景、新企画「誕生日寄付事業」の概要等をご説明し、関係者のご理解・賛同を頂くとともに、

「個人寄付推進事業」について各社の取り組みの情報を共有し、今後、当協会ウェブサイトを通じて展開する「誕生日寄付推進事業」への、広報活動、全国の寄付者の情報収集にご協力頂けることとなった。

開催日時：平成30年10月3日（水） 16：00～17：30

場所：日本フィランソロピー協会 会議室

議題：①個人寄付を含めた顕彰事業の今後の在り方について
②誕生日寄付の今後の進め方について

参加者：【外部関係者】

出口 正之 様（国立民族学博物館 教授）

河崎 保徳 様（ロート製薬株式会社 広報・CSR推進部 部長）

小林 征人 様（大和ハウス工業株式会社 CSR部 社会責任グループ グループ長）

小淵 康博 様（西武信用金庫 法人推進部）

【日本フィランソロピー協会】敬称略

浅野 史郎 会長（当日急遽出張のため、メッセージのみ）

村木 厚子 理事

高橋 陽子 理事長

大西 誠 シニアフェロー（元株式会社ジャルパック代表取締役社長）

(2) フィランソロピー名刺事業

フィランソロピー普及と障がい者の経済的自立のための名刺制作事業。

1件：100枚

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
制作件数	270	333	356	348	308

(3) 声の花束

今後、新規の音訳ファイルを受け付けないこととなった。既存の音訳ファイルは継続して専用サイトにて公開する。

作品名	著作権者	音訳者数
家族力大賞2009	東京都社会福祉協議会	14名
きずなづくり大賞2015	東京都社会福祉協議会	13名

(4) 「企業の学校教育・青少年教育支援活動に関する調査」

次世代教育のための学校・企業連携を促進することを目的に、アンケート調査を実施。

【調査対象】学校教育・青少年教育に関する自主プログラムを実施している企業

【調査期間】平成30年9月10日（月）～平成30年11月9日（金）

【成果物】「企業の学校教育・青少年教育活動事例集」を作成。教育委員会、学校等に配布するとともに、公益社団法人日本フィランソロピー協会ウェブサイトに掲載。

2. 次世代育成事業

(1) 寄付推進事業（「寄付育」）

地域課題を題材にした課題解決学習を通して、子どもたちの「生きる力」を育てる教育機会を創出、普及する事業。平成30年度も、公益財団法人JKAの補助事業として実施。

各地域で推進してくれるキーパーソンに「推進委員」になって頂き、各学校での事業を進めていただくとともに、3地域でのセミナーと、東京での合同報告会を開催した。

◆推進委員

委員長 唐木 清志氏（筑波大学人間系 教授）

東京 高橋 良久氏 (江東区立深川第二中学校 校長)
 東北 (仙台) 中澤 宏一氏 (前宮城県仙台二華中学・高等学校 副校長)
 東北 (仙台) 柴田 隆一氏 (東北学院中学校 教諭)
 関西 (大阪) 神山 和英氏 (大阪府立長吉高等学校 教諭)
 関西 (大阪) 富田 年久氏 (大阪府立東住吉高等学校 教諭)
 関西 (大阪) 岡本 工介氏 (一般社団法人タウンスペース WAKWAK 事務局長)
 九州 (福岡) 入江 誠剛氏 (福岡教育大学 特任教授)

◆実践校

- ・東京都杉並区立杉並和泉学園・中学部
- ・東京都江東区立深川第二中学校
- ・東北学院中学校・高等学校
- ・大阪府高槻市立赤大路小学校
- ・福岡県福岡市立堅粕小学校

◆企業の授業づくりサポート

- ・三菱地所株式会社：まちづくりについての授業づくり
- ・プルデンシャル ジブラルタ ファイナンシャル生命保険株式会社：PGF オープンアカデミー

◆セミナー・合同報告会 スケジュール

エリア	内容
東京	日時：平成 30 年 12 月 2 日 (日) 13:00～16:00 会場：TKP 東京駅セントラルカンファレンスセンター 10B テーマ：社会課題に挑戦する子どもたちを支える企業・学校の取り組み 講師：岡本 和久氏 (I・O ウェルス・アドバイザーズ株式会社 代表取締役社長) 高橋 良久氏 (東京都江東区立深川第二中学校 校長) 増永 康行氏 (NEC マネジメントパートナー株式会社 首都圏フロントサービス事業部 エキスパート) 家田 えり子氏 (株式会社資生堂 サステナビリティ戦略部 開発グループ マネージャー)
大阪	第 31 回フィランソロピーセミナー ～大阪編～ として開催
宮城	日時：平成 31 年 1 月 26 日 (土) 13:00～17:00 会場：石巻商工会議所 テーマ：災害を乗り越えて地域創生を支える次世代リーダーシップ ～企業・学校の現場から～ 講師：唐木 清志氏 (筑波大学人間系 教授) 岡本 工介氏 (一般社団法人タウンスペース WAKWAK 事務局長) 宮城県石巻西高等学校／石巻市立石巻中学校／東北学院中学校・高等学校 石巻市内企業・団体
東京	推進委員会と兼ね、平成 30 年度事業の振り返りと、来年度に向けた意見交換 日時：平成 31 年 3 月 10 日 (日) 13:00～15:30 会場：TKP ガーデンシティ PREMIUM 田町 参加者：推進委員会委員、学校関係者、企業担当者

(2) 「子どもの支援 伴走者」育成プログラム (独立行政法人福祉医療機構助成事業)

今年度は、過去 2 年間の研修を踏まえより広く展開するための、「子ども支援ファシリテーター育成プログラムの完成」を目指して実施した。また、昨年度のプログラムをもとに、子どもの貧困に対し、複数の地域、複数の接点 (食堂、居場所、遊び場など) で、企業人としての資源を活かし、継続的・積極的に、支援の現場にかかわる人材を育成することを目的とした。研修の検討に向けて 5 月から 9 月にかけて外部検討委員による 5 回の検討委員会を実施。研修は 10 月末から開始、5 回の研修は講義とワークショップで構成。5 回の研修以外に 2 回以上の現場体験を実施 (各地の子ども食堂やその他の支援団体での現場体験を準備)。最終報告兼成果物を作成。

◆外部検討委員

- 相川 良子 氏 (NPO 法人ピアサポートネットしぶや 理事長)
- 浦田 愛 氏 (文京区社会福祉協議会)
- 隅谷 理子 氏 (臨床心理士)
- 田中 康之 氏 (株式会社リンクアンドモチベーション 研修講師)
- 前野 隆司 氏 (慶應義塾大学院 システムデザイン・マネジメント研究科 教授)
- 松田 雄年 氏 (社会福祉法人東京家庭学校 校長)
- 横田 宗 氏 (NPO 法人アクション 代表)
- 幸重 忠孝 氏 (こどもソーシャルワークセンター 代表)

研修スケジュール

第1回 10月30日	子どもの『貧・困』の現状の理解1
第2回 11月16日	子どもの『貧・困』の現状の理解2
第3回 12月7日	現状の整理 (ワークショップ)
第4回 1月18日	企業で働く個人が支援に参加する意味の確認
第5回 2月5日	活動計画立案 (ワークショップ) と修了式
現場体験 (個別調整)	子ども食堂1か所と、それ以外 (学習支援、生活支援、居場所支援) 1か所の計2か所以上の現場体験を実施
シンポジウム 2月25日	子どもの『貧・困』への多様なかかわり方を知る -パネルディスカッション 1, 若き支援者の想い NPO ハーフタイム(葛飾区)事務局長 三枝 功侍氏 ポートファミリア(横浜市)統括責任者 柴崎 淳氏 他 2, 当事者の想い -特別講演 「誰もが幸せになるために～幸福学から考える～」 前野 隆司氏 (慶應義塾大学大学院 システムデザイン・マネジメント 研究科 教授) 出席者数 70名

研修実施結果

受講申込者数 31 に対し、研修を実施。7 割の受講生が講義 5 回中 3 回以上出席した。現場体験へは、7 割の受講生が 2 回以上参加し述べ参加者数は 50 名以上となった。

アンケート分析結果から、毎回、出席者の 8 割以上の受講生の理解度が高まったことが判明。また基礎的な内容であった第 1 回目は 7 割が、具体的な内容に踏み込んだ講義となった 2 回目以降は 9 割以上の受講生が、活動意欲が増した、と回答した。

一方、申込をしたものの 1 度も参加しなかったもしくは 1 回しか参加しなかった申込者数が 6 名 (約 2 割) であった。

(3) インターンシップ受入れ

これからの社会貢献活動を担う次世代の育成を目的として、平成 30 年度も、積極的にインターンシップ受け入れに取り組んだ。

(4) 企業の学校教育・青少年教育支援活動に関するアンケート調査

企業による次世代育成の取り組みを広げていくために、「学校教育・青少年教育活動に関する調査」を行い、現状と課題、事例を共有する。

実施期間：平成 30 年 9 月～11 月

配布方法：メールおよび郵送

配布先：日本フィランソロピー協会会員企業、教育支援活動を行っている企業

配布数：256 社

回答数：78 社（30.4%）＊うち会員企業 48 社

IV. 会員の推移

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
正会員	34	33	29	27	26
賛助会員(法人)	79	81	88	93	101
法人 計	113	114	117	120	127
賛助会員(個人)	89	83	88	91	94

《正会員》

■入会（種別変更）1 社

- ・東京海上日動火災保険株式会社(賛助会員 注1)

■種別変更 2 社

(正会員より賛助会員へ種別変更)

- ・アメリカン・エクスプレス・インターナショナル・インコーポレイテッド
- ・三井物産株式会社

《賛助会員》

■入会 13 社

- ・株式会社ブリヂストン
- ・株式会社セブン&アイ・ホールディングス
- ・永島橋本安國法律事務所
- ・みらかホールディングス株式会社
- ・株式会社SUBARU
- ・ハーベスト株式会社
- ・ブリティッシュ・アメリカン・タバコ・ジャパン合同会社
- ・株式会社レオパレス 21
- ・シチズン時計株式会社
- ・ゼブラ株式会社
- ・株式会社インフォメーション・ディベロプメント
- ・株式会社三菱UFJ銀行
- ・株式会社アデランス

■退会 6 社

- ・さわやか信用金庫
- ・セガサミーホールディングス株式会社
- ・SMB C コンシューマーファイナンス株式会社
- ・株式会社ティー・マップ
- ・アイディール・リーダーズ株式会社
- ・株式会社リンクグローバルソリューション

■種別変更 3 社

(賛助会員より正会員へ種別変更)

- ・東京海上日動火災保険株式会社（正会員 注1）
- (正会員より賛助会員へ種別変更)
- ・アメリカン・エクスプレス・インターナショナル・インコーポレイテッド
- ・三井物産株式会社

以上

平成 30 年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

令和元年(2019 年)5 月
公益社団法人日本フィランソロピー協会